

平成24年度千葉市市民局指定管理者選定評価委員会 第1回市民・文化部会議事録

1 日時：平成24年5月28日（月）午前10時～午前11時30分

2 場所：千葉中央コミュニティセンター6階 講習室4

3 出席者：

(1) 委員

篠原榮一委員（部会長）、稲垣總一郎委員（副部会長）、新谷周平委員、
早川恒雄委員、榊瀧俊子委員

(2) 事務局

角田生活文化スポーツ部長、吉原市民総務課長、御園市民総務課長補佐、
三橋総務係長、土肥主任主事、石垣主事、
鈴木文化振興課長、太田主査、小田倉副主査、荻谷主任主事

4 議題：

- (1) 「千葉市文化交流プラザ」における指定管理者の行った施設の管理に係る総合評価について
- (2) 今後の予定について

5 議事概要：

- (1) 「千葉市文化交流プラザ」における指定管理者の行った施設の管理に係る総合評価について

まず、平成23年度の「指定管理者評価シート」について、引き続き、過年度の評価結果等を踏まえ作成した「指定管理者総合評価シート」について施設所管課から説明の後、意見交換を経て、部会としての意見を取りまとめ、決定した。

- (2) 今後の予定について

今後の年度評価のスケジュールについて、事務局から説明をした。

6 会議経過：

○司会 それでは、定刻となりましたので、平成24年度千葉市市民局指定管理者選定評価委員会第1回市民・文化部会を開会いたします。

委員の皆様にはお忙しい中、お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

私、本日の司会を務めさせていただきます。市民総務課課長補佐の御園でございます。よろしくお願いいたします。

本日の会議でございますが、市の情報公開条例第25条に基づき、公開されております。なお、現在は傍聴人の方はいらしていません。

本日は、夏期節電の一環として、職員は軽装とさせていただいておりますので、ご了承

ください。

続きまして、委員の方のご紹介ですが、委員の皆様には、昨年度とは変更がございませんので、今回はご省略ということでさせていただきます。

次に事務局の職員につきまして、4月の人事異動で変更がございましたので、紹介させていただきます。

まず、生活文化スポーツ部長の角田でございます。

続いて、本日、評価をお願いいたします、千葉市文化交流プラザの所管課でございます文化振興課長の鈴木でございます。

続きまして、市民総務課長の吉原でございます。

それでは、開会に当たりまして、本日の会議の所管部長でございます、生活文化スポーツ部長の角田からご挨拶を申し上げます。

○生活文化スポーツ部長 おはようございます。生活文化スポーツ部長の角田でございます。

委員の皆様方にはお忙しい中、本日、千葉市市民局指定管理者選定評価委員会 市民・文化部会にご出席いただき、ありがとうございます。

また、日頃より、市政各般にわたり多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

本来であれば熊谷市長からご挨拶申し上げるところでございますが、所用のため欠席しておりますので、代わりまして私がお挨拶させていただきます。

本日の部会は、千葉市文化交流プラザの指定期間が最終年度となりますことから、過去4年間の総合評価について、委員の皆様にご意見を賜りたいと考えております。そのご意見を今後の指定管理、施設のあり方に反映させるためのものがございます。

本施設が、平成12年2月に「ばるるプラザ千葉」として開業いたしまして、市が19年に本施設を取得いたしましてから6年経過しております。施設を取り巻く環境の変化や、これから生じてまいります経年劣化等に伴う修繕などを考えますと、今後の施設のあり方に何かと課題があるかと感じております。

委員の皆様方には、豊富なご経験と高いご見識から、ご意見をいただきますようお願い申し上げます。私のご挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしく願いいたします。

○司会 それでは、議事に入ります前に、本日の資料の確認をさせていただきます。

まず、机上に「諮問書の写し」と「席次表」がございます。

次に、ファイルのほうを開いていただきまして、本日の次第が1枚目でございます。

次に、青色のインデックスのほう、資料になります。資料1のほうは「千葉市市民局指定管理者選定評価委員会第1回市民・文化部会進行表」でございます。

資料2は「市民・文化部会で審議する公の施設一覧」になります。

次に、資料3-1から4は「千葉市文化交流プラザ」の平成23年度評価の、まず、1が「指定管理者評価シート」、2が「事業計画書」、3が「事業報告書」、4が「財務諸表」でございます。

資料4の1から2は、同じく「文化交流プラザ」の1が「指定管理者の総合評価資料」で、2が「指定管理者総合評価シート」でございます。

資料5は「市民・文化部会の今後の流れについて」でございます。

次に、赤色のインデックスでございます。参考資料になります。

1は「千葉市文化交流プラザ平成20年度～22年度指定管理者評価シート」

2は「千葉市文化交流プラザ部門別の収支比率の推移（概算）」

3は「千葉市文化交流プラザ指定管理者募集要項」

4が「千葉市文化交流プラザ指定管理者管理運営の基準」

5は「千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例」

6が「千葉市市民局指定管理者選定評価委員会の会議の公開及び議事録の作成等について」

7が「部会の設置について」

以上をお配りしております。不足等ございましたらお知らせいただけますか。

よろしいでしょうか。

それでは続きまして、会議の成立について、ご報告いたします。

本日は、5人、すべて委員の皆様にご出席いただいておりますので、千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例第10条第2項に基づき、会議は成立しております。

では、これより議事に入らせていただきます。

これからの議事につきましては、進行を部会長にお願いしたいと存じますので、よろしくをお願いいたします。

○部会長 おはようございます。それでは、次第に従いまして、議事を進行してまいります。

もう2年関わったということで、1年に一度しか会わないので、えらく時間が早いなど思っているのですが、最近は新聞を見ていると、千葉市はよく指定管理者で新聞に載るものですから、かなり真剣にやらないといけないなど。それと、特に3.11の後、僕、いろいろな委員会に出るのですが、かなりみんな真剣になってきたなという気がしているんですね。やっぱりあるシンクタンクの方が、放射線関係のある団体のことで、まさかあんなことをやっていたという、お互いにもたれ合っていた、日本の非常にいい面と悪い面が出てきたのかなという、何となくこう言えば、余り突っ込まないというか、その辺の突っ込み具合が一番難しかったという気も、僕もしているんですけど。そういう意味では、今日も真剣にやらなきゃ、いろいろとご協力、よろしくをお願いいたします。

まず、議題の1の「千葉市文化交流プラザにおける指定管理者の行った施設の管理に係る総合評価について」に入らせていただきます。

まず、市民・文化部会での総合評価について審議するのは、我々の部会では、今回の施設が初めてですので、総合評価というものについて、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、指定管理者の行った施設の管理に係る総合評価の概略について、ご説明いたします。

失礼して、着席で説明させていただきます。

まず、総合評価とは、各年において実施しました年度評価を踏まえ、指定期間の最終年度において指定管理者選定評価委員会にて行うものでありまして、現指定管理者の管理業務の総括について評価を行うものでございます。

なお、今回の対象は、千葉市文化交流プラザのみでございます。

現在の指定管理者の指定期間は今年度で5年目となり、最終年度となりますことから、総合評価を実施するものでございます。

次に、評価の進め方でございますが、まず、施設所管課より平成23年度の指定管理者評価シートについてご説明いたしまして、その後、過年度の評価結果等を踏まえ作成いたしました指定管理者総合評価シートについて、説明させていただきます。

委員の皆様には、この総合評価について、評価の妥当性をご審議いただくとともに、サービス水準の向上、あるいは業務の効率化などの観点から、次期指定管理者の選定に向けてのご意見をいただきたいと考えております。

以上でございます。

○部会長 ありがとうございます。

ただいまの事務局からの説明について、何かご質問がございましたらよろしくお願ひします。

僕からちょっと、いわゆる年度評価の総合評価のほう、足してそのままなのか、何か配慮しなければならない部分というのはあるのでしょうか。ここの場合、よく僕らが悩まされるのは、技術なんかは1年、2年と長くかかるから、これは明らかに年度評価と総合評価で変わるのですが、ここの場合は、足し算でいいのかなという、いわゆる4年度をいわゆる足した分を。

○事務局 この時は足し算でよろしいかと思っております。年度評価ですと、例えば1年目でございますと、その施設の管理にかかるイニシャルコストがかかったりして、申し上げるまでもないと思いますが、1年度目としてはそれほど利益が上がらないというようなことはあるかと思いますが、その後、だんだん利益が上がってきて、通年通すとプラスに転じているからいいだろうとか、というふうな見方もできるかと思っておりますので、そういった形で、足し算ということでよろしいかと思っております。

○部会長 それと、何というんですか、経済情勢というか、ここの業績に対する、ちょっとどうなっているのか、その辺の説明もちょっと。特に、我々が今、悩まされている3.11の影響度、あの辺はこれを見た限りで、それほどはっきり書いていないものですから、その辺もちょっと説明していただけたらと。

○事務局 その辺も、資料のところ。そこを明記してある部分もあろうかと思っておりますので、そういったこともお含みいただいて、総合評価をしていただきたいと思っております。

○部会長 わかりました。

何かなければ、よろしいですか。

それでは、所管課のほうの説明をよろしくお願ひいたします。

○文化振興課長 文化振興課でございます。それでは、ご説明申し上げます。

初めに、資料3-1をご覧ください。「平成23年度指定管理者評価シート」でございます。

まず「1 基本情報」欄なんですが、施設名は「千葉市文化交流プラザ」でございますが、京葉銀行が命名権を取得しまして、平成20年度から5年間、愛称として「京葉銀行文化プラザ」としております。指定管理者が「千葉トリニティ運営事業体」で、こちらは、今年度から公益財団法人となりました「千葉市文化振興財団」、それと「株式会社千葉共立」、代表企業の「株式会社千葉マリスタジアム」の三者から構成されておまして、指定期

間は、平成20年4月1日から25年3月31日までの5年間となります。

次に「2 管理運営の実績」欄の(1)「主な実施事業」でございますが、プラザには、音楽ホール、リハーサル室、会議室、通称スパ&フィットネスと呼ばれております、プール、トレーニング室及び温浴施設、それと駐車場がございます。指定管理事業では、これらの施設の運營業務、維持管理業務、経営管理業務を行っております。

このほか、プラザには、レストラン及び厨房があり、自主事業として、ホールを利用したコンサート等文化事業の実施、会議室と厨房を利用したケータリング、宴会事業等の実施、レストランの営業などがございます。

続きまして(2)「利用状況」の「①利用者数」ですが、施設全体では、平成22年度から微増となっておりますが、部門別に見ますと、会議室及びリハーサル室が1割以上の増加となっております。また、その下の「②稼働率」につきましては、全部門とも、若干増加しております。

次に(3)「収支状況」についてですが、指定管理者の株主総会前ということですので、金額は現時点では暫定の扱いとなりますが、23年度の収入は6億7,839万9,000円です。

次ページをお願いします。支出ですが、支出は6億6,084万7,000円であり、おおむね計画どおりとなっております。収支決算見込み額は1,755万2,000円の利益を計上しております。

引き続き(4)「指定管理者が行った行政処分の件数」をご覧ください。各施設の使用許可件数は、総件数は18万3,690件で、使用の不許可や、制限を行ったものはありません。また、その下の欄ですが(5)「市への不服申立て」もございませんでした。

次に(6)「情報公開の状況」ですが、表の下、米印のところですが、指定管理者作成の提案書につきまして、1件の文書開示請求を受け、平成24年1月に部分開示決定を行いました。

続きまして「3 利用者ニーズ・満足度等の把握」なんですが、(1)「指定管理者が行ったアンケート調査の結果」については、平成23年度から音楽ホールの利用者についても回答をいただくようにしております。

3ページをご覧ください。「②調査の結果」これにつきましては、抜粋で掲載させてもらっておりますが、その下の欄「③アンケートにより得られた主な意見、苦情とそれへの対応」及び(2)「市に寄せられた意見、苦情」は、ご覧のとおりとなっております。

4ページをお願いいたします。「4 指定管理者による自己評価」ですが、評価内容は、年度当初は東日本大震災の影響によりまして運営は厳しかったのですが、これまでの営業努力等が実を結び、黒字化を達成したとしております。また、昨年の大震災の経験を生かして、常に利用者の安全第一の運営を行ったとしております。

続きまして「5 市による評価」の欄をご覧ください。

収支では、現指定管理者が運営を開始してから、平成23年度になって初めて利益を計上したこと、また、履行状況はおおむね計画どおりであり、管理運営が良好に行われていたことから、評価は「A」といたしました。評価の基準と、これからご説明する履行状況点数については、7ページに記載のとおりでございます。

また、4ページをお願いいたします。「履行状況の確認」なのですが「1」の評価をした

1項目につきまして、ご説明をいたします。

4ページ、表の中ほどですが「障害者雇用」については、当プラザの職員を主に雇用している指定管理者の代表企業である株式会社千葉マリスタジアム全体としては、法定雇用率を満たしているのですが、プラザ自体では、現在、雇用者がいませんので、今後も障害者雇用の余地について、検討の継続を求めるという意味で「1」としました。

その他の項目におきましては、おおむね計画どおりの実績・成果が認められましたので、すべて「2」と評価しております。また「3」の評価をしたものは、この23年度はございませんでした。

7ページをお願いいたします。合計平均点についてですが「履行状況の確認」事項、全54項目の合計点数が107、平均が2.0となりました。

平成23年度評価シートの説明につきましては、以上でございます。

なお、添付しております資料3-4「指定管理者財務諸表」につきましては、指定管理者各構成団体の株主総会がまだ済んでおりませんので、昨年度の決算報告書と予算書を添付させていただいておりますことをご了承願います。

続きまして、平成20年度から23年度までの4年間の評価を説明いたします。

初めに、資料4-1をご覧ください。「指定管理者総合評価資料」ですが、この資料により、4年間を振り返っていただいた後、資料4-2の「指定管理者総合評価シート」について、ご説明させていただきたいと思っております。

それでは、資料4-1「総合評価資料」の「1 基本情報」及び「2 管理運営状況」の(1)「業務の概要」については、記載のとおりとなっております。

(2)「利用状況」をご覧ください。

まず「①利用者数」ですが、前指定管理者が管理していた平成19年度と比べて、増減はありますが、おおむね同水準を維持しております。部門別で見ますと、スパ&フィットネスは減少傾向となっておりますが、これは、近隣に類似施設が新規開業したことなどが影響しているものと思われれます。

「②稼働率」が増加傾向にあり、指定管理者の努力が窺える結果となっております。

続きまして「3 利用者意見への対応状況」は、ご覧のとおりです。

次ページをお願いいたします。2ページから3ページの「4 収支状況」についてですが(1)「過年度収入・支出状況」をご覧ください。

平成20年度は指定管理業務を開始するにあたり、初期投資や、千葉市が購入を決定する前の平成18年度に一度閉館を告知した影響によりまして、一度離れた利用者が戻り切らず、計画ほど収入が伸びませんで、結果2億円余りの欠損を計上したものの、経営努力を重ね、平成21年度は、近隣に類似施設が新規開業するなどの需要変動がありましたが、約7,700万円と欠損の幅を縮小しました。22年度においては震災の影響もあり、約4,600万円の欠損で、黒字には至らなかったものの、23年度は1,800万円余りの利益を計上しました。

最後に(2)「管理経費の縮減に係る取組み」についてですが、本施設は独立採算制をとっておりまして、委託業務の見直し、人件費の大幅な削減、光熱水費の抑制など、管理経費の縮減のために徹底した対策を行っております。また、あわせて収入確保のため、営業の強化や各種広報活動、また、各種利用プランの作成、提案などを行いまして、施設の安

定経営のために尽力しました。

以上をご確認いただきまして、それから資料4-2「指定管理総合評価シート」をお願いしたいと思います。

資料4-2ですが「1 基本情報」につきましては、説明を割愛させていただきます。

「2 総合評価」の欄は、先ほどの資料3-1平成23年度評価シートほか、参考資料として配られている赤色の資料1指定管理者評価シートの22年度分の評価シート、この中の「履行状況の確認」欄の確認事項、これらの項目を総括したものです。資料の中ですが、20年度と21年度の評価シートは、現在のものと様式が異なっておりまして「履行状況の確認」項目欄がございません。

では、資料4-2をご覧ください。総合評価の(1)「過年度の管理運営業務に対する評価」につきましては、評価を「A」としました。評価の基準は次ページに記載のとおりですが、おおむね事業計画どおりの実績・成果が認められた、とさせていただいております。

「A」以外の評価をいたしましたものは二つございまして、一つが(6)「緊急時の対応」でございます。これは平成22年度末の大震災の際には、適切な利用者への対応はもちろんとしまして、避難所として帰宅困難者の保護に尽力したことを評価しまして「S」としました。「S」というのは事業計画を超える実績・成果が認められた、とするものでございます。

二つ目は、その下(7)「障害者雇用」につきまして、これは平成23年度評価シートで説明したのと同じ理由からなのですが、評価は「B」事業計画どおりの実績・成果が認められず、改善を要する事項があった、とさせていただいております。

表の続きですが、2ページ末尾の総合評価につきましては、おおむね事業計画どおりの実績が認められたものと判断し「A」と評価させていただきました。

総合評価シートの説明は以上です。なお、赤いインデックスの参考資料2にございます「部門別収支の比率の推移」、というのがありますが、昨年度、当部会でいただきました意見から、参考としましてこの資料を添付しました。

説明は以上です。

○部会長 ありがとうございます。

所管から一通り説明いただきましたが、文化交流プラザの総合評価につきまして、評価案が示されていますので、まず初めに、この市当局の作成した評価の妥当性について、委員の皆様から意見、コメント等があればお願いいたします。

○委員 前回も聞いたと思うのですが、稼働率という評価がありますが、これはどうやって出すんですか。

○文化振興課長 稼働率につきましては、資料3-3にございます事業報告書がありますが、3枚目、3ページ目をご覧くださいと、今回ここに示しているのは回転率ですね。区分ごとの使用回数、これは、午前、午後、夜間、これらの区分ごとの使用回数を使用可能回数で割ったもの。ですから、稼働率よりも回転率、微妙に渋い数字で出ているんだと思います。

○委員 具体的に言いますと、会議室、貸し室がありますね。その稼働率と回転率はどうやって計算するんですか。使用可能というのは、午前、午後、夜と分けてということですか。

○文化振興課長 午前、午後、夜間というふうに、使用回数を区分ごとにやったものが回転率。

○委員 三つで、そのうち、何回使ったかというのが回転率。

○文化振興課長 そうです。使用率というのは、使った日にちを、オープンしていた使える日にちで割ったものということで、使用率。

○委員 営業日分の、実際、使われた日ということですか。

○文化振興課長 使った日にち。

○委員 回転率というのは、一日を三つに分けて、そのうち、何回使ったかと、そういうことですね。

○文化振興課長 はい。そういうふうに出して。

○委員 その中に使用人数は入っていないですね。一人でも1回転ですね。

○文化振興課長 はい、使ってあればというもので。

○委員 ただ、使用率が高い、一人か二人しか来なくたって、それが高いからいいというわけでは必ずしもないのでは。ゼロよりはいいわけですけども。そういう理解でいいんですね。この利用者数の推移とあわせて考えていいということですね、評価をする場合は。

○文化振興課長 はい。

○委員 それと、会議室とかは別に30人使おうと、10人使おうと、貸すほうとしては、別にそれでいいわけですが、会議をすればね。別に会議に20人集まろうと、30人集まろうと。

○委員 それは構わないわけなんです。ただ、もっと極端に言うと、どうせお茶か、コーヒーか食事をするのであれば、3人でやるより、10人でやるほうがいいわけですよ。

○委員 関連して、レストランの中に客が行きやすいと。

○委員 そういうことになるかと。

○委員 5人で集まったのでは、ちょっとしか行かない。

○委員 そういうふうにはほかの利用率とリンクして考えればいいということですね。

○部会長 ほかに。

○委員 前回駐車場がかなり問題になったと思うんですが、今回の評価のときにはあまり出ていないですが、それは意図的に外したんですか。年間利用4,300人くらいあるんですよ。その表によると。

○文化振興課長 駐車場につきましては、一昨年、経費節減に向けて直営にして、また今年度から委託というふうな形をとっていますが、去年の駐車場の問題という、稼働率の話じゃなくて。

○委員 いや、採算が悪い、赤字だったということでしょう。だから、それに対して改善したかどうかという評価はどこにあるんですかということ。委託にしちゃったから、入ろうが、入るまいが、もう委託料で決めてあるからいいんだと、こういう理解でいいのかどうかということです。

○生活文化スポーツ部長 駐車場の収支につきましては、23年度を22年度と比較しますと、20万円ほど改善しているんですが。

○委員 売り上げが増えているんですか。

○生活文化スポーツ部長 はい。増えております。ただ、まだ収支については、まだあ

まり良好な状態じゃないですけど、改善はしています。

○委員 いや、ただ、前回の評価を見ると、あまりにも空きができちゃってるんです。時間貸しの駐車場は、周りのほうが安いんですよ。この施設の道路の反対側のところですよ。だから、そういう問題をどうしようかなんていう議論があったように記憶しているんで、やっぱりその辺を直さないと、駐車スペースはあったって、誰だって安いほうがいいので。片方は平面駐車、片方は立体駐車ですからね。だから、そういうことも検討する必要があるねというような意見があったような気がするんですが。

○文化振興課長 収入と支出のバランスを見ますと、駐車場に関して言えば、20年当初、30%台だったものが、50%をちょっと超えたところまでは行ったんですが、それでも、まだ1にはなっていないと思うんですよ。

○委員 もったいないのです。1階部分がだっと広いんですが、その1階はあまり停められないんです。だから、そんなところの工夫をすれば、もうちょっと駐車場の台数を増やしていけるし、立体駐車をやると、必ず人がいなきゃいけないということになりますから。

○生活文化スポーツ部長 駐車場の利用につきましては、改善する方向で、検討をするときに。

○委員 そのほうが、コストは全く先ほどと同じで、投下されている資本は同じですから、1台でも多く停まる、それだけ丸儲けということですから、今後検討する余地はあると思います。

○委員 計画比でやっているから、こんなものかと。結局、できることをやっているから、それはそういう、特にミスがなかったというだけの話。結局、ちょっと無理かもしれないけども、ほかの似たような、よその施設と比較しての稼働率では、変わりますよね。千葉市に限らず全国的に。そういうのに比べて、例えば会議室の稼働率で、よそに比べてどうなのとか、そういうデータが欲しいなという感じがしますね。計画との比較も、もちろん必要なんですけどね。客観的に、一般的に貸し会議室、あちこちにあるけど、そういうところの稼働率を見たところ、まだまだだという、そういうのはちょっと知りたいかなという感じがしますね。

○生活文化スポーツ部長 この施設だけで申しますと、類似の施設と比べますと、稼働率は、現実的には決してよくないという状況でございます。民間の施設と比較しますということになりますと、民間の施設は、なかなかこういった複合の施設はないというのが現状でございます。比較しにくいというのが実情でございます。現在の指定管理者につきましては、あくまで独立採算でやっていただくということで、市費を投入しないという条件でございますので、そこはちょっとご理解いただければと思います。

なかなかこの複合、スパとか、ホールと、宴会場という形の施設が、なかなかないものですから、そこはちょっと難しい状況なんです。会議室なら会議室とか、宴会場なら宴会場というのは、会議室と宴会場とかのセットはあるんですが、ちょっと複合施設としては、民間では、なかなかこういった施設を持っていないというのが現状でございます。

○文化振興課長 稼働率は私のほうからお答えします。

ここのホール、プラザの稼働率、これは回転率といいますけど、40.7%、ほかの市民会館の大ホールが、59.9%、文化センターが54.1%、若葉文化ホールが45.1%、美浜の文化ホール、メインホールが50.7%と比べると、このプラザの40%台

という、一番低い数字になっておりますが、今、部長からお話がありましたように、民間施設の同様の規模のというところと比較すると、今、データがないということと、プラザの性格の話だったとおりでございました。ですから、市で持っている文化ホール、文化施設の稼働率の比較とすると、低いほうに値してしまいます。そういう結果になっております。

○部会長 4-1の4年間の比較で見ますと、最初の年度、2億円の赤字が、今、1,800万円ということで、傾向的には大分改善されたと思いますが、全般的な印象だと、先ほどいろいろと質問したように、まだまだ、より利益の出る余地があるのかなという気がします。

それで、この3億円赤字というのは、これは受けたところが負っているんですね。これは市からお金を出さない。

○生活文化スポーツ部長 そうです。

○部会長 これに対する事業体が、ちょっとちょうだいとか、そういうものはあるんですか。それとも、契約上、そういうことはあり得ないと僕は思うけど、どうですか。その辺の、この3億円の赤字に対する取り扱い。これを消すとなると、ちょっと大変だよ。

○生活文化スポーツ部長 なかなか指定管理者としては、黒字がやっと出ているんですが、独立採算でやるのがかなり厳しい状況でございます。これが、先ほど説明しました参考資料2に、収支の推移がございまして、ホールと、スパと、駐車場の収支比率というのが、かなりほかと比べて、委員さんのご指摘のように、低くてというのは、指定管理者として厳しい状況でございます。

市としては、条件としては独立採算でやるという話なんですけど、今後、ずっとこういった形でやっていくという考えを持っているので、うちとしては、ただ、この三つの施設をどういった形で運営していくかというのが、やっぱり先ほど委員さんのご指摘があったように、収益性を上げるような方向を考えていかなければいけないというふうに、改善していくべきだと考えています。

○委員 結局、この収支というのは、参加3団体が一定の比率で負担するんですね。マリスタジアムだけが全て背負うわけじゃないでしょう。

○生活文化スポーツ部長 それはしないです。

○委員 例えば1億円の赤字が出れば、その当初の比率はここの中ではわかりませんが、4、3、3とか、5、3、2とかと、そういう割合で負担する、利益が出たら、その割合で分配するということですか。

○生活文化スポーツ部長 はい。

○部会長 その関連で、財務諸表、去年のだということで見ると、千葉共立はえらく利益比率がよくて、売上総利益が約5割、めちゃくちゃいいですよ。千葉ロッテは悪いんですが。ちょっと僕もこれを見て、千葉市文化振興財団の損益決算書の正味財産の増減を見ますと、文化事業収益は、収入に対して事業費が、収入4,500万円、事業費が1億5,000万円、これ、慈善事業をやっているんじゃないかなと。この辺が赤字の元なのか。そうすると、市から何らかの分を出さなくちゃいけないかと。これはあれなんですか、最初から予定されたものなんですか。

○生活文化スポーツ部長 文化振興財団の本体の収支。公益財団法人ですので、市から

事業を委託されてやるというスタイルでございます。

○委員 この資料では、マリスタジアムは赤字になっていますけど、ここだけの赤字じゃないんですね。他の事業を含めて全体として赤字ということですね。

○生活文化スポーツ部長 そうです。平成20年の赤字というのは、前施設の管理者から千葉市が引き継いで最初の年でございまして、修繕とか、あと備品を購入したり、あとその当時、リーマンショックが流行ってまして、そのところで、初年度に当たる年に、施設の調度品だとか備品を購入する経費とかがかなりかかっていますので、この20年度が、かなり全体のその収支のバランスを崩しているというところで、それを除けば、非常に改善しているということが言えると思います。

○部会長 僕らは、こういう指定管理者といろいろ関わっているのですが、すごく心配なのは、厳しく段々なっているので、応募者が誰もいなくなっちゃうんじゃないかと。すると、ここなんか魅力あるかなという。

○委員 千葉市に住んでいるから、だからわかるから申し上げるけれども、当社はもともとマリスタジアムの管理会社だった。ロッテが管理を任せろということでその部分の仕事がぼんとなくなった。それから、ご記憶にあるかなと思いますが、去年、ここコミュニティセンターの指定管理も千葉マリスタジアムから違う会社に移した。そういうように、収入源がどんどん切れていって、最後の拠り所が「ばるる」になっていると、こういうことだと理解しているんです。

この1年を、振り返ってみると、物凄く努力をしているんです。ただ、この結果をどう維持していくかというのが非常に難しい。例えば、市でやるいろいろな会合は、努めてあそこを使えというように申し上げているのかどうかわからないけれども、かなり積極的にあそこでパーティーとか何かが開かれるような、そういうやり方にする。

それから、当社の職員が、いろいろな送別会だとか、新年会は是非ともやってくれと、呼び込んでいるという、そういう非常に見えないところの努力があって、こういう結果になっているわけですから。これを維持するためには、もっと市がお金を出すのではなく、そういう意味でのサポートの体制を強化していかないと、すぐ後ろに戻ってしまうと思います。

そういう意味で、細かくはわからないけど、増えている部分、食の部門は計画より増えています。やっぱり、おいしい料理を出して、もう一遍来てみようと思ってもらう。アンケートでもう一遍来たいという人が非常に多いけれど、もう二度と嫌だという声も多いんです。だから、そういう努力、本当の利用者の声を聞いて、努力していく必要があると思います。会社自体は物凄く努力しています。この2年ぐらい。これは認めていいと思います。

○部会長 このフィットネスのほう、周りに競争会社ができ、ああいうことは、設備投資の中に、多少市もお金をかけないと、その辺の検討はされているんですかね。今のままでぎりぎりかという印象もあるんですけど。

○生活文化スポーツ部長 今、やはり先ほど、ご挨拶で申し上げましたように、全体のその収益、駐車場も含めて収益等々も考えていかないといけないな、という時期に来ているという考えを持っています。

○委員 そうですね。

○部会長 場所はいいし、すごくいい建物で、物凄く千葉にとって財産だろうなという。それが重荷になっちゃうと困るねという感じ。

○委員 ただ、フィットネスの利用率というのはあまり上がっていませんね。だから、もう満杯だということですか。今、部会長がおっしゃったように、もうそれ以上、入らないよという状態かもわからない。この前、ご案内していただいて見たとき、結構いっぱいですからね。だから、いつも来る方が、ぱっと時間に行っちゃうから、ほかの人はなかなか入れない、入れ切れないとすれば、例えばここに書いてあるように、温泉、露天風呂でしたか、これを再開したらどうだという声があれば、そんなことを多少のお金をかけても、今、部会長が言ったみたいに、そういう、もうちょっと収容人員を増やしたり、収容の幅を増やすような工夫をしてもいいと思います。大してお金はかからないのじゃないかと思えますよ。今まである露天風呂をちょっと直すぐらいだったら、そういう工夫をしていくという、そういうことが必要だと思います。

○部会長 あと、災害対策、評価「S」という、僕もそうだろうなという気がするんですが、今回の当然経験を積んでいけば、マニュアル改訂とか、必要ではないか、その辺はどうなの、検討されているのでしょうか。恐らく、今までの、いけているというのは、よりいい方向にいくかなという。

○生活文化スポーツ部長 今、具体的に、この施設単体ということで話がありますが、市が全体の災害時の避難、受け入れとか、そういった構想を今創っていますので、その中でこの施設がどういう位置づけになっているのか、今、多分公の施設は、そういった形で全部、取り組んでいくはずになっております。

○部会長 今度の東電のあれを見ると、めったに使わないものが使えなかったという。やっぱり日常に、もう組み込んでいなきゃ駄目だなという、一つはありますよね。訓練ばかりよりは、うまく組み込んでいかないと、やっぱり30年に一度来るようなものは、動かしていなきゃ絶対に動かないだろうなというやつはね。

○委員 おっしゃるとおりで、全体としてやるというのはいいんだけど、あの建物で、一番上の温水プール、フィットネスクラブにいる人とか、ホールにいる人とか、そういう人を、施設として、どういうふうに誘導をするかというのは、常に工夫をしておく必要があると思えますね。

○生活文化スポーツ部長 その訓練はやっております。ただ、災害時に受け入れる、今回は受け入れていますので、その体制をやっぴり恒常的にやっていくというのも、していきたいなとは思っています。

○委員 もう皆さん、ご記憶がないかなと思いますが、あのとき非常に目立ったのは、駅が時間でシャッターを下してしまったんです。入れなかった。だから、余計一段とこの施設の対応がよろしいということになったという、相対的な評価でもあると思っています。

○文化振興課長 実際に避難所として、市としても、このプラザを既に指定しております。3.11の時は、200人以上があの中で過ごしたという、そんなことから、評価「S」という、対応がよかったという。

○部会長 僕、すごく不思議なのは、地震が来ると、みんな外へ逃げちゃうじゃないですか。今の建物、この前のニュージーランドみたいに潰れるということは余りなくて、例えば六本木ヒルズのほうから話を聞いたら、この建物は大丈夫だから、逃げなくていいよ

という放送しているにもかかわらず、何割かは外に出て行っちゃったという。

今はもう普段から、この建物は精度がいいとか何かね、いろいろやっていないと、大体本能的にみんな外へ出ちゃうという、かえって危ないような気がするんですけど。うちのマンションなんかも、今、逃げ込み場所としてはいいなという、だから、木造とか何かだったら、受け入れざるを得ないというか、ちょっとやっぱり考え方を変えないといけないのかなと。

それと、この電気、僕、日本っていいなと思うのは、いろいろなシンポジウムも聞いているんですが。これなんです、電気代がこれから上がると思うんですけど、僕、高校も大学も電気工学を出ていて、もう忘れてしまったんですけど、これ、700ルクスなんですってね、ジムの。今は400ルクスに落としている。

それと一方は、経済産業省、国土交通だと思っんですけど、エネルギーゼロ運動といって、建物全体で使うものはゼロにしちゃう。最新のビルというのは7割はカットできるわけ。こういうスカイビルみたいなもの。こっち側は消すとかうまく使う。3割残って、それを太陽光、風力でやる、ほぼ全部できるという、今、建物が増えてきているんですが。こういうのも、もうちょっといろいろな工夫をせざるを得ないのかなと。積極的にやっついていかないと。

日本って、海外を旅行すればすぐにわかる。明る過ぎるんですね。やたらと電気点けているという。何でみんな、海外へこれだけ行って、勉強してこないのかなという気はするんですけど。

ただ、中央はそんなに暗くできないと、今、個人のこういうスタンドをつけて、全体的には暗くするとか、いろいろな工夫をしているんですけど、だから、会議室なんかはそんなに明るくなくていいんじゃないかという気もするんですね。言われたら明るくすればいい。今はあれでしょう。僕がちょうど大学のSERというところに行って、これ、リニアで明るくしたり、暗くしたり、できるんだよね。すうっとうね。

だから、かなりそのときの要望でできるようになるから、もうちょっと、結構これ、確か、さっき見てて、電力とか、水とか、物凄くたくさんというようなもので、もういろいろな方法。これは全体でここも工夫をしないと。ただ、お客さん相手だから余り強制できない部分があるので、サービスが悪いとか言われちゃうじゃないですか。だから、それとの兼ね合いかなという気もするんですけども。だけど、これから、そんな贅沢言われてられない、というレベルから対応できる。

日本って、非常に贅沢だと思っんだよ。ノルウェーってご存じだと思っんですけど、あそこ北海油田が出るんですよ。だけど、ガソリン代は3倍ですから、日本の。ということは、将来、なくなるものは使わないという前提の社会を創ろうとしている。日本は気にしないじゃないですか。

だから、やっぱりそういう部分で、今度の節電、やっぱりエネルギーを大事に使っていくという、政府は、だけど、もう欠けているんじゃないのと。だから、ある人が言っていたけど、原子力も、今、使用済み燃料というのはどうするか、物凄くみんな悩んでいるけど、100年後いっぱい建てて、エネルギーで使わざるを得なくなってくると、今みたいに使っちゃえばね。だからもうちょっと、あまり大きい話になっちゃうけど、エネルギーのもう少しきめ細かさがないかなというくらいの気持ちがね。

この前、中央省庁で高いところへ行ってみると、全部上は芝生を植えているんです。あれは恐らく温暖化で、今は太陽光を敷き詰めたほうが、エネルギーは小さくなるんじゃないの。いわゆる温暖化に対して、より効果があるんじゃないのかな。そうでもないですか。

○委員 文京区で屋上の芝生というか、グリーンについては、区が助成を出して、かなりのビルの屋上をグリーンにしていますね。太陽光発電をするのと、それからグリーンにするのと、どちらが温暖化に効果があるのかというのは、なかなか試算が難しいかと思うんですけども。

○部会長 僕、日本は、ショックを受けたのは、中国が太陽光、風力とか、自然エネルギーを使っている、世界の5位に全部入るんですよ。日本は何カ所しかない。いかに、日本は再生エネルギーに取り組みが遅かったかというね。

○委員 もともと中国はそんなに、近代化しているところは急速にしましたけど、広い国土でしていないところはかなり多いですから。だから、そういう意味では、今の現状でいえば、その自然エネルギーへの依存度は高いと思います。そういうことだと思うんですね。

○部会長 向こうのほうがね。

○委員 いわゆる、もう電気はそうですね。僕も建築屋に言ったんですけど、窓際と別にできないかという、**建築屋は従来の考えで、電線が縦に来て、向こうにスイッチやる**ほうが便利だから、できないと言うんです。別にできないことはないんだけど、要するに、もう従来そういうやり方できた。だから、よほど強く言わないと、縦に向こうにスイッチ、入り口でやりたいから。別の視点から、線にすると、すごく回してこなきゃいけない。いろいろな問題ありますけどね。その一列だけ消せば簡単なんだけど、縦にしたのを点けるので。

○委員 ちょっとよくわからないのですが、基本的にこの施設は独立採算ですよ。ただ、大分修繕はやっていますよね、施設の修繕。これは市のほうで経費は負担されているんですよ。

○生活文化スポーツ部長 大規模な修繕は市で直しますが、60万円以内の小さな修繕については、指定管理者の責任でやっていただいています。

○委員 そうですね。だから、そうなってくると、一応、独立採算とはいえ、この施設の維持管理には、またかなりのお金がかかっているわけですよ。

○生活文化スポーツ部長 はい。

○委員 それで、あと一つは、どうしてそんなに稼働率が低いのかということで、そっちのほうから今、気になって。会議室とか稼働率が低いんだったら、場所もいいし、もう少し上げることはできないのかなというふうに思って。その辺の施設の維持管理というのはどうなっているのかなと思ったら、それは、これを見ると、どうも大規模なものは、もちろん市の所有のものですから、出しているわけですよ。だから、そういうような負担は、委託管理者は負っていないわけですよ。それで、なお且つ、ようやく1,000万円ちょっとの収益がというような状態になってくるわけですよ。普通の民間であれば、施設の維持管理費も含めて、小規模も含めてやっているわけですよ。だから、その辺で、その稼働率を上げるためには、いろいろ改善も必要なところもあるんだけど、どの辺のところを改善していけばいいのかなというのが、ちょっと見えてこないというのか、市のほ

うでも、どういうふうな指導をされているのかということについて、ちょっとご説明をいただきたいのですが。

○生活文化スポーツ部長　この指定管理者のほうがちよつとつらいのは、普通の例えば文化センターとか、若葉文化ホール、市が持っているホールは、市の施設ということで、そこを指定管理者に選定して、指定管理者に委託料を払って、普通、管理する。

○委員　知っています。

○生活文化スポーツ部長　ということは、指定管理者は収入が市から入ってくるんですけど、ここはホールも持っていますし、ほかの施設、複合施設なんですけど、指定管理者は市から貰っていないという分だけ、最初からもうハンディを負っているわけです、この指定管理者については。

○委員　わかります。

○生活文化スポーツ部長　公の施設の指定管理というのは、普通、市が公の施設を持って、その独立採算でやっていることは余りないんですよ。ですから、この指定管理者、非常に立場的には市から委託料を貰っていないということで、経営としては、大変厳しい経営にならざるを得ないというのが現状なんです。というのは、例えば各ホールを持っているところ、この指定管理者になったところは、その指定管理料という収入が入ってきますので、ここの指定管理者については、指定管理料という収入が入ってこないというのが、その条件になっていますので。ここは、その収益、結構つらい状態にしているというのが現状でございます。

○委員　結局、最初に一回しゃべられたお話だって、3億円なんかも、赤字をどうしているのという、赤字でも受注するのという、そういう最初のご質問に、今ずれちゃったんですけれど、そういう赤字でなぜやるのという、その質問はどうなったんですか。

○文化スポーツ部長　確かに、年間で3億1,500万円という赤字を計上したまま、それでいいのかという話、そこは、その独立採算の是非というのがついて回る話だと思うんですが、過去の経緯からすると、今、説明したように、初期の投資ですとか、彼らの経済環境、また経営環境、外部環境が随分変わってきたということがありまして、損失の理由は、本当にいっぱい揃っちゃうんですが、今、委員さん、指定管理委託料のお話、修繕についても、赤字がずっと続くと、修繕にも手が回らないのじゃないかというご指摘を受けて、それが稼働率に響いてというのも貴重な意見でございますので、その独立採算の是非については、今日のその意見は、次期の指定管理に向けての検討にしていかなきゃいけないというふうには、私たちは考えます。

選定委員会で委員さんからのご意見ということで、次期に向けた検討の課題として。

○部会長　応募がゼロだと困っちゃいますので、だから、その辺も多少は考慮してあげないと。

○委員　結局、ここを見ると、会議室なんかは民間で、何も税金で維持する必要はないし、いろいろな分野がありますよね。何でここを税金でずっと使っているんだという問題が、という、そういう大きな議論ですよ。これは赤字で、民間がやっても赤字でやっていけないと。フィットネスクラブも民間で競争して、生き残らなきゃいけないということもないような気はするし、すぐ近くにあるんだし、会議室なんかもいっぱいありますよね、あちこちで。

それで、さっき全体で会議室はそういうのはどうなのと聞いたんですけど、そもそも何のために、これ税金で頑張って、こういう会議室をやっているのかという、それがわからない。例えばホールの場合は、民間では簡単にできないからというのはわかるんですけど、会議室なんかはどこでもあるし、レストランも幾らでもあるし、あそこで食べなきゃいけないことはないし。

○生活文化スポーツ部長　これを取得した当時は、会議室だとか、スパという施設が周辺になかったんです、現実的には。今、周りにはかなりできてきまして、競合するというような現実になっています。当時は、千葉駅の周りにあまりなかったんですが、ここ四、五年の間はかなり文化施設ができてきまして、この再開発のところにJRのビルができたりと、状況が大きく変わってきている。

○部会長　今、駅の周りにマンションができたり、昔と全然ね。いわゆる採算が合うようになってしまったのか、競争相手が出てきた。

○委員　マーケットとしては、文化交流プラザができたときと比べれば、ずっとよくなっています。だから、収入のチャンスはいっぱいあると思うんです。さっき、何であんなものやるんだという質問があるということですが、これは、郵政施設を引き受けたんでしよう。

○部会長　押しつけられたんです。

○委員　今、もう要らないんだったら、要らないで、売るとか何かするとか。

○委員　これは前回も、前々回も言っているんですが、1階にゆうちょ銀行の支店があるんですよ、レストランの隣に。年中のぼり立てて、もうあのビルのイメージを損なうこと、おびたしいです。だから、次回のときは、あれをもう撤去することを検討してもいいと思います。勿論、家賃もらっていますから、家賃と新たな貸し借りのどっちがいいかという、そういう問題はあるかもわかりませんが、1階のフロアは、レストランとか、飲食で一体的に使っていくとか、何かそういう工夫をしてやらないと、あのままだと、どうもここへ入っていても、心がうきうきしないですね。

○委員　基本は、入り口が暗いんですよ。民間みたいに、さあ、いらっしゃいという雰囲気じゃないんですよ。もういかにも、何か堅苦しい、遊べるような感じがしない。

○委員　私だけじゃないんですね。あそこ、余りお客さんが来るような場所じゃない。たまたま郵貯の施設だったから、そのまま引き継いだのだと思いますので、あれはどこかへ移したほうが良いような気がします。

○委員　だけど、独立採算の是非という問題ではなくて、やっぱりあの施設をどういうふうにして活用されていくのかというところの議論からしないと、やっぱりお金はつぎ込むことになるし。

○生活文化スポーツ部長　そういう施設のあり方も、もう議論する時期に入っていると思いますので。

○委員　もう原則、独立採算になるべきですよ。市がお金を出す必要なんて絶対ない。市のものですから、壁が崩れたとか、これは市がやらなきゃいけないですけど、これは独立採算でいいと思うので、さっき言ったような、もう1階に行ったら、もうレストラン街とか、そういうものにすると、そういう一般の民間商業施設と変わらないような雰囲気を作るように、やっぱり市も指導していかないといけないと、そう思います。

周りにあのマンションがいっぱいできましたから、これもこの前に言いましたけど、皆さん、風呂場代わりにどんどん来るんですね。スパはいっぱいですよ、いつ行っても。だから、そういうのをうまく使っていくとか、やり方はいっぱいあると思います。

歳を取ってくると、おうちで料理するより、隣で食べちゃったほうが良いという人が多くなります。ちょっと気の利いたメニューを作れば、周りの人はそこで朝を食べたり、お昼を食べたりですから、新しいお客をどうやって受け入れるかということも、努力しているとは思いますが、さらに工夫なさったら面白いのじゃないかと思います。

○部会長 僕、今、東京でいろいろなところで、子供たちに批難されているんだけど、並んで食事するところがあるんですよ。880円の天井、テレビでしょっちゅう宣伝してくれるんですよ、ただで。そういうことをやれば宣伝費ゼロなんです。だから、もう1カ月に一度はテレビで映っているんじゃないかなと。物凄く並んでいますよ。そういうところ、僕、何件か行っているけれども。本当にやっぱりそこまでは別としても、やっぱり何か考えないとというか。

僕も、年金で建てたものの処分、大分こうやって、こちらからすると押しつけられた感じがあると思うんだけど、だけど、活用するという意味で、もうちょっと考えないとというか。

それは次として、それでは、この評価の関係でどうでしょうか。「A」ということなんです。

○委員 私は、施設管理者の努力を考え、収益が増えてきているという現状から考えれば「A」でいいと思います。ただ、例えば駐車場の問題とか、みんなが言ったように、1階のさらにお客さんに来てもらうための努力とかは必要だと思いますが、今日の評価結果は「A」でいいのではないかなというふうに思います。

○委員 同じくですけど、おっしゃっているように、入り口がもうちょっと客向きじゃないなという印象を。

○部会長 やっぱりそういう意味での努力は認めると。まだまだ努力の余地があるのかなというか、それは市としての取り組みも、物凄くいるなということですね。

○委員 そうですね。

○部会長 ということで、今までの意見を総合して「A」評価が相当であるということで、いいですか。今、言ったこともちょっといろいろな意味で協議していただくということで「A」と。

○生活文化スポーツ部長 伺いましたご意見を考慮させていただきます、検討させていただきます。

○部会長 それでは、時間が来ちゃったので、次に、施設のサービスの向上、これは、今、議論されましたが、あるいは業務の効率化などの観点から、次期指定管理者の選定に向けての意見をいただきたいと思います。

今まで大分出ましたが、委員の皆様から、忌憚のない意見を聞かせていただければ、ありがたいと思いますので、よろしくお願いします。大分出たような気もするのですが。

○委員 今までのとも重なりますし、でも、今後のことというので。さっき、委員がおっしゃったような、その公共性と収益性をどっちへどういうふうに向けるのかというのは、市が、割と明確に出したほうが良いのじゃないかと思うんですけど。

それと具体的な、今回の評価とも若干係わるんですけど、例えばこの資料の出し方のところで、自主事業の例えば内容が載っているんですけど、自主事業は、その収益性と公共性のどこを狙って、その結果、どういう実際の結果になったのかという辺りは、ここからはちょっと読み取れる情報はなかったんですけども。

あと、ほかの、ここの論議でも何度か言っていますけど、利用者の年齢層というのは、ほとんどデータ上、出てこないんですよ。感覚としては、今の公共施設は、ほとんど高齢者の利用に偏っているんじゃないかというふうに思っていて、そのことはいろいろな意味で、収益性の意味でも、今後の展望からすると、先細りになっていくというふうなこともありますし、公共性という観点からいくと、もう幅広い利用が得られていないことと、それから、もっと大きいのは、僕もそうですけど、僕らの世代は公共から恩恵を得ていないという感覚が強いわけですね。そうすると、今後、税金を出したい気持ちになる市民が育っていかないわけですね。だから、金を持っているお年寄りが有利に利用しているという施設になってはいけないというふうに思うので。

そういう意味では、この評価にかかるコストがどれほどかみたいなこととのバランスになるので、実質的に評価すればするほど、そこにコストをかけなきゃいけないので、指定管理者にとっては困難であると思うんですけど、年齢層に関しては、かなり大きいかなというふうに思っています。

それから、もう一個は、先ほどもあったんですけど、建物自体のもうちょっと広告機能みたいなのが全然ない気がして。この施設も、毎回、来るたびに思うんですけど、この施設が何なんだといえ、ここの中に入って見て、いろいろ歩かないとわからないようになっていて、そこの今回のプラザもそうですけど、今まで「ばるる」という名前があったのが、京葉銀行の名前になったので、千葉市のものだというイメージが全然持っていないということもあるんですけど。公共的なものでもあるけど、魅力的だよみたいなことが、あの前を通ると感じられる何かがないと、そこの投資ぐらひは市がやらないと、公共としてのイメージも、収益性にも繋がらないようになってくるのかなという気がします。

○部会長　僕も、10年ぐらひ他でも施設の評価をやっていますが、もっと宣伝したらという、民間圧迫とか、いろいろとあって。ただ、今は互角に宣伝できて、何となく、今、僕が言ったように、宣伝が下手というか、もっといろいろな手段があるんじゃないという気はしているんですね。もう民業圧迫というよりも競争相手で、だって、明らかに競争相手になってきているんだから、堂々とやって、切磋琢磨していいんじゃないかと。多少、下駄履いている部分もあるけど、やっぱりこれからはそれが必要だろうと。

それと、実は、僕もサークルみたいなものに入って、いろいろなところ使いますが、やっぱり官のほうが使用料は全然安いんですよ。民間を使うと、むちゃくちゃ高くて。まさに今、言ったように、年寄りが使っちゃっているというか、我々世代もそうなんだけど、定年になったらというか、非常にいっぱい使っているんですよ。うちのマンションも実は本当に多くて、80歳以上が物凄く多くて、40年経っているものですから。そうすると、賃貸の若い人たちには何の魅力もないというか、場所的にはいいんだけど、そういうサークル活動には全然入ってこないという。

だから、やっぱり今、20代に魅力があるという意味での。結構フラダンスやったり、今の20代って、結構そういう活動というのをやっているんですよ。だから、もう少し若

い人向けの魅力あるというか、黙っていれば年寄りには暇と金があるから、やっちゃっているという、少し考える必要がある。

○委員 繰り返して言いますが、文化交流プラザの経営というのは、今、ああいうものを取得したら、ざっと100億円はかかる、土地から全部入れてね。もっとかかるかもわかりませんが、その100億円という初期投資なしで施設を借りているわけですから、これはもう1円たりとも払う必要は全くない。それで利益が上がらない、いい経営ができないなら、次の方法を考えていいと思います。

○部会長 やっぱり、多少利益が出るようにしないと。

○委員 なってきたから、その体制が維持できるように努力すべきです。それでも駄目よというなら、これはもう変わらなきゃ。常識で考えれば、出店コストが一銭もかからないわけですからね。これは儲かるはずなんですよ。儲かるというか、採算が取れるはずだと。やらない人が言っても駄目だけど、普通ならそうなるはずですよ。新しく建物を建てて儲ける人がいるのに、建物を建てないで儲からないと言っているんじゃない、これはよっぽど経営能力が低いということになります。

○部会長 こういう質問、ちょっと不謹慎かなと思うけど、あれ、もし売るとしたら、幾らぐらいで売れるの、民間で。例えば50億円で売れたら、儲かっちゃうんでしょ。

○生活文化スポーツ部長 買ったのは、価格は低かったです。

○部会長 あれ、確か、ああいうのを売りたいときに、売っちゃいけないんですね。で、安く売ってるんじゃないの。

○生活文化スポーツ部長 いや、普通財産になれば、売ることはできます。

○委員 結局、あれですかね、レストランでも何でも、うちは料理は旨いんだといても、入り口を汚くしたら、やっぱり入らないじゃないですか。結局、10階に上がればいいフィットネスだ、何だとしても、結局おっしゃったように、入り口からやっぱり客を呼び込むような気持ち、どんなレストランでも、ホテルでも、民間ってそこに工夫していますよね。

○委員 そこを工夫している。

○委員 結局、お客さんという発想というか、やっぱりどうしても入り口が何か堅いというか、重いというか、ぱっと明るさが足りないというか、ちょっとそこが民間とは大きな違いでしょうね。

○委員 何度も行っている我々でも通り過ぎちゃって、入り口はどこだっけなど。こっちから行くと、表通りの角に、ゆうちょのキャッシュコーナーみたいなのがあったり。だから、通り過ぎちゃう。

○部会長 レストランも、僕も何回かは行ったんだけど、椅子とかなんかが安っぽい。何となく、すかすかした感じというか。今、ああいう感じ、民間ではなくなってきたような気がします。

○委員 ないと思いますね。

○部会長 ちょっとやっぱり、そこまで言っちゃうとあれなんですけど。

○委員 こっち側のカウンターなんて要らないですよ、レストランでね。あんなの取っ払っちゃえば、そこにさらにテーブルが置けるし。いろんな工夫をやっぱりする余地はあると思います。

○部会長 食べた感じは、僕、満足したんだけど、何というのか、長期滞在型というの、あそこへ来ると、四、五人で来て、1時間も2時間も占領するというタイプかなという気は、昼飯を食べてぱっと行くというのじゃないなという感じがしますね。

○委員 でも、公共サービスですよ、まあ、いわばね。だから当然、施設も無料で借りて、維持費があるわけですから、当然質とかの面と比べてのそれなりのものがあるって、廉価でいいわけですよ。それはやっぱり民業圧迫になっちゃうわけですかね。

○委員 考えなくていいんじゃないんですか。

○委員 考えなくていいですよ。だから、やっぱりいかにいいサービスと、それから、やっぱり公共ではなくてはできないようなサービスを、その辺を、今度、選定するとき、そういうようなものを提供するサービスの中身についても出てくるような格好にしないと、民間でも同じ食堂とか、レストランとかやっていたら、同じレベルでもって競争することになりますよね。

だからその辺で、どのような、何か違う民間ではないコンセプトになるよう、地域振興みたいなことも含めて、入れていくのかどうかというようなことをちょっと考えないと、やっぱり同じ質とサービスだったら、何も公共でお金を出して、施設を貸与してやる必要というのはないわけですよ。

○委員 前、聞いたか忘れちゃったんですけど、あそこ、ボランティアセンターみたいなもの入っていましたか。

○生活文化スポーツ部長 ありましたけど、今は移りました。

○委員 今はない。

○文化振興課長 この4月に移りまして。

○委員 どういう経緯なんですか。

○生活文化スポーツ部長 中央の文化センターのところに移ったんですが、あそこに国際交流協会とか、いろいろな団体がありますので、そこの一角に入ると。

○委員 今まで、ここの、こっちのプラザの経営と、そこは何か関係はしていたんですか。

○文化振興課長 特に。場所の提供をしていただけです。

○委員 別組織ですね。

○委員 どこの話ですか。

○生活文化スポーツ部長 2階にございました。

○委員 2階に何が。

○文化振興課長 ボランティアズカフェ。

○委員 それは、やっぱり委員がおっしゃったように、絶対に見直すべきですよ。1階のレストランも、入ったところのカウンターがあって、暗くて、ここにオーバーをひっかける衝立があって、その向こうを見るとカウンターがある。もう入っただけで、ふんという感じになっちゃって。あれも、もっと空間にして明るくして、ぱっと部屋へ入って行って、座れるというふうにしないと、入ってみようかなと、覗いたら、まあ、いいやとかいうことになっちゃうので。そういう工夫が、まさにこの指定管理者が工夫すべきなんですよね。

○委員 造った時代が古いので、あのころ暗いというのが流行った部分があったと思う

んですけど、何か重苦しいというのが格好いいんだみたいな。今、実はライト感覚というか、みんな明るく造っています。どこでも、千葉駅のあれでもそうですけど、年じゅう模様替え、何年に1回か業者でやっていますよね、もう時代に合わせて。どうしてもそれに遅れちゃうんですよね、やっぱり公的だから。今、みんな明るい、東口なんかもきれいに天井を高くして、ああいうふうにするじゃないですか。もう昔みたいに重苦しいのは駄目という時代ですよね。すべて重苦しいのは嫌われるというか。それを年じゅう、民間みたいにやっていくのも大工事みたいなという、そこですよ。難しいところです。

○委員 今、言ったのは、駅ビルの話。5年後に綺麗になってきちゃうと。

○部会長 3年後ですか。

○委員 駅ビルはもっとかかるんですよ。ホテルが入る。

○委員 5年後でしょう。

○委員 多分、今度は明るく。

ああいうテントみたいな、こんなになっているのが、今、明るく、頭の上、西口のほうが、あんな感じですよ、今みんなどこでもね。

○委員 いや、だからそういう意味では、今、会議室等がありますよね。それも民間がかなりもう満杯ならば、やっぱりそれは別の使い方も考えてもいいかもしれないですよ。それで、市の施設なんですから、そういう意味では、もう公益団体とか、ボランティア関係の団体とかの事務所とか、そういったところに提供していくようなことは、公共サービスとしてはあってもいいかと思うんですよ。だって、会議室幾つもの稼働率が低いものをそうたくさん持っておく必要もないわけですよ。

○部会長 それでは、いろいろな意見が出て、まとめでありますので、次期指定管理者の選定に向けての意見ということで、幾つかまとめたいと思います。

まず、駐車場や、スパ、フィットネスなど、各施設の利用者数が増加していますが、検討する必要があるということ、これは、さっき言った年齢という。もう1個、工夫・検討というのは広く、さっき言った施設の改善から、中身はいろいろと。これ、後で書いたほうがいいかな。今いろいろな意見が出てきた部分で、いわゆる若者や施設の魅力とかといろいろなその周りの環境。

○委員 だから、まず、利用する年齢層を把握することと、それから、あまり偏っていたらば、やっぱりもう少し若者なりに利用してもらえるように、施設のあり方というのを提案してもらおうとか、そういうようなことが。

○部会長 もうちょっとそれを具体的にまとめていきます。

2番目が、独立採算の是非を検討していく必要とともに、市として、文化交流プラザをどうしていくか。施設のあり方を検討しては。

○委員 独立採算制の是非というのは、ちょっと外したらどうですか。委員も、当然その独立採算でというふうにおっしゃって。是非ではなくて。

○部会長 そうですね。

○委員 市のほうは是非とおっしゃったんだけど、それは是非か非かということではなくて、もう前提がね。

○部会長 そうですね。僕なんかも、実は、いろいろと自民党時代から、民営化とか言って、ちょっと行き過ぎている、官は官として別としてあるんじゃないかと。それをきち

っと位置づけて、うまく割合でやっていかないとという気がしているんですね。だから、今、中央省庁でも、どんどん民営で、民間に出せというけど、すべて出したらノウハウもなくなっちゃって、僕ら、国の仕事をしたときに、もう見積り自体が検討できないという状況になっちゃうというか。そういう意味では、僕は市政をやるためには、あるところまでは絶対に官がやらなくちゃいけないかと。

まさに、今回の事故って、安全とかをいろいろと考えたら、多少無駄なところをやっているけど、余り無駄じゃ困るよというか、その目的もきちっと定義すればという。この辺が、この今言った中身で、単に採算ばかり考えられない。ただ、やっぱりこれから金がなくなってくるんだから、余り贅沢もできないので、難しいなというか、僕いろいろな最近の問題、連立方程式の非常に何次元もの連立を解かなきゃならないぐらいで、単純にはいかない。日本はえらく大変だなという意識しながらやらざるを得ない。

次が、市として、プラザの公共性と収益性をどのように考えるか、先ほどと同じなんです。整理する必要があるという。

それで、その次が、これはどうかな。先ほど、今言ったように、採算がとれないならば、施設のあり方を検討する。これは、最初の2番目と同じだから、これはちょっと除いて、上のを具体的に、これだけ独立すると、ちょっと強烈過ぎるので。

○委員　だから、公共性と、採算性をどうとるかということの中でもって、施設のあり方を検討していけばいいのじゃないでしょうかね。

○部会長　ということで、ちょっと余りまとまりが少ないですけど、いろいろと話していたんですけど、うまくまとめていただくということで、よろしいですかね。内容的には、かなりいろいろと出てきたので、それなりの。

僕がもしつけ加えるなら、次期指定管理者応募に魅力を考慮しないと、この今言った部分を、魅力あるというのは変なんだけど、この用語は難しいですかね。単に指定管理料を払えという話でもないんだけど。

○委員　でも、どうしたら魅力が出るんですかね。

○委員　今って、小さい子供が利用できる場所ってあるんですか。

○文化振興課長　特に年齢に絞った、そのターゲットをそこに絞った施設はないですね。ただ、制限しているわけじゃなくて。

○生活文化スポーツ部長　ホールなんかは、比較的、いいホールですよ。あのホール、お子さんが使っているというのがあるんですが、あれを民間の施設で、あのホールを借りたら、通常借りられないぐらいのいいホールですよ。

○部会長　あれ、音の質、物凄くいいですね。

○委員　だから、ああいうホールを生かして、それで、使えばいいと思うんですよ。

○委員　子供が利用できるというところがあると、違う年齢層が入ってくるきっかけにはなると思うんですよ。

○委員　利用料が高いから。

○委員　そうですね。

○部会長　あそこ、高いの。

○委員　高いって、お子さんがやるには高いということで、音楽会やるには、そんなに高くない。入場料取れるから。

○部会長 我々、公認会計士の千葉県会の総会が、来週か再来週あるんですよ、別のホテルで。今回ここを何で使わないかなど、ちょっと役員に聞いてみますけど、どちらが高いか検討されたほうが、100人ぐらい集まるんだろうと思うんですね。

○委員 会議用としていいですよ。

○生活文化スポーツ部長 ぜひ、お使いいただいて。

○委員 「ばるる」のときは、銀行のIRとか、証券会社の説明会とか、そういうものであそこを随分使っていたようですが、京葉銀行文化プラザという名前が付いたら、あまり使わなくなったようです。

○委員 あれ、どういうふうにして。

○部会長 競争相手になっちゃったんですね。

○委員 あれはどうして、あれが、京葉銀行がついているんですか。

○委員 命名権を売ったんですよ。名前を使うかわりに。

○部会長 あれ、2,000万円か、1,000万円で、確か、売ったんじゃない。

○生活文化スポーツ部長 1,200万円で。

○委員 それは5年間ですか。

○文化振興課長 いえ、1年間で。

○委員 5年間で6,000万円か、7,000万円。

○文化振興課長 初年度だけ1,000万円ですね。

○委員 ここの収入になっていない。

○委員 でも、施設が、何か京葉銀行の施設みたいですよ。

○部会長 今のあれで、ちょっとまとまりがないのですが、これはいろいろな意見が出て、うまくまとめて、事務局にお願いしていいですかね。意見としていっぱい出たので。

○委員 まとめていただいて、部会長と協議で決めていただければいいんじゃないですかね。

○部会長 ということで、よろしくお願いします。

次期指定管理者の選定の最後に、先ほど言った、魅力あるというか、うまくここをやらないと、僕も心配なので、反映させていただくということで、よろしくお願いします。

以上で、指定管理者の行った施設の管理に係る総合評価についての審議を終了します。

それでは、次の議題2「今後の予定について」、事務局から説明をお願いします。

○事務局 それでは、「今後の予定について」、ご説明させていただきます。

資料5をご覧ください。青いインデックスの5と表記された資料でございます。

今回の第2回市民・文化部会は7月6日に開催を予定しております。本日ご審議いただきました文化交流プラザを除いた、10施設・4指定管理者の平成23年度の年度評価をご審議いただくこととなっております。施設の数が多くなりますので、午前・午後にかける開催を予定しております。

本日及び第2回市民・文化部会において、取りまとめていただきますご意見等につきましては、部会長さんから選定評価委員会の会長さんにご報告をいただき、その後、会長さんから市長あてに、委員会の意見として答申をしていただくという流れになります。

この委員会の答申を受けまして、各施設所管課が委員会のご意見を指定管理者評価シート等に記載し、9月上旬に、市ホームページに掲載し公表するとともに、指定管理者へ通

知いたします。

また、部会の会議録及び委員会会長からの答申につきましても、同様に市ホームページにて公表することとなります。公表の時期等が決まり次第、委員の皆様にはご報告させていただきます。

なお、今回の部会の会議録につきましては、来月の末ごろ、委員の皆様にご確認をお願いしたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

次に、10月に開催を予定しております、第3回市民・文化部会におきましては、文化交流プラザの次期指定管理予定候補者の選定などについて、ご審議をいただきます。

その後、12月に開催予定の第4回千葉市議会定例会に、指定管理者の指定に係る議案を提出し、議決をいただきました後、平成25年3月に協定を締結し、4月から指定管理開始となります。

皆様、ご多用中、何度もお集まりいただきまことに恐縮ですが、よろしくお願いたします。

以上でございます。

○部会長　ただ今の事務局からの説明について、何かご質問等がありますでしょうか。

(なし)

○部会長　なければ、これで、本日の議題は全て終了いたしましたので、ありがとうございました。

それでは、事務局にお返しします。

○司会　長時間にわたりまして、慎重なご審議、どうもありがとうございました。

以上をもちまして、平成24年度千葉市市民局指定管理者選定評価委員会第1回市民・文化部会を閉会いたします。

次回、7月6日、金曜日を予定しておりますが、会場、時間等は、またこちらの事務局から皆様のほうにご連絡をさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。